

あなたを追って北の国へ・・・/ 南の島へ忍び寄るモ/

ISSN 2185-632X

すずがも通信

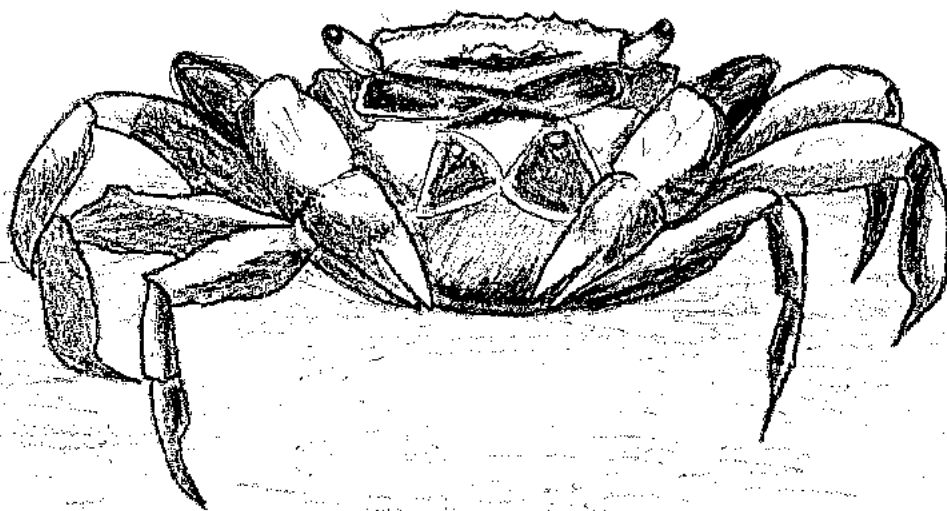
認定NPO法人 行徳野鳥観察舎友の会 会報 220号

2016年10月1日発行

わたしはウモレベンケイガニ。いつも流木や石の下(↓)でくらしています。
クロベンケイガニやベンケイガニより小さくて地味だけど、ちょっと変わったベンケイとして、どうかお見知りおきを・・・(↓)

イラスト：み

レイアウト：町田 安男



夏のイベント、多くの方にご参加いただきました。感謝！！



渡り鳥のふるさとを訪ねて 9月3日 行徳公民館

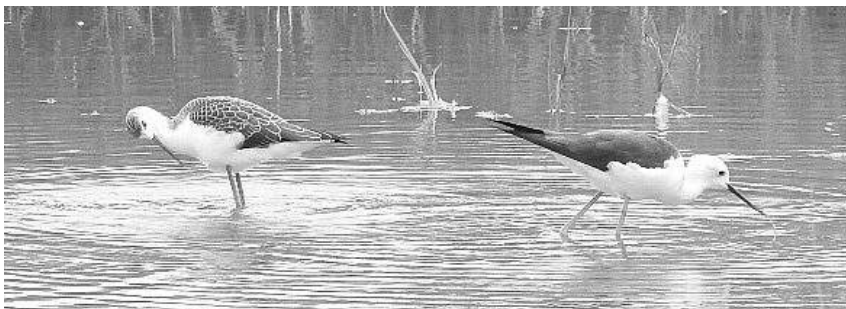
友の会スタッフの佐藤が、コクガンやカモメ類が繁殖するロシアでの調査に参加してきました（本誌8ページに記事あり）



夜の生物観察会 8月21日(日)



コガネムシの仲間がぎっしり



久々に見られたセイタカシギの親子。近隣で繁殖したものだろうか？

観察舎休館後初めての夏

行徳野鳥観察舎無期限休館以来、初めての夏が終わりました。

子供たちに人気の昆虫やカニの観察会や、今年度から始めたフィールドミュージアムなどのイベントが、厳しい暑さと台風をやり過ごしながら続けました。観察舎を使つての準備や広報はできなかったけれど、なんとか実施はできたことにホッとしています。去年までは、イベント解散後、観察舎の2階で一休み。雪のように散らばっているシラサギの群れを眺めたり、浅瀬で妖怪のように浮き沈みするアカエイに歓声をあげたり、干潟をわたってくる風に吹かれて気持ちよさそうに眠ってしまう子供たちの姿もありました。また、チリメンジャコを調べたり、植物の標本や生物のマスコットを作ったりという「座学」系の講座もありました。こういったことは、自然の普及啓蒙にとって、保護区でのイベントと両輪をなす大切な要素だと考えています。毎秋の学校の「社会科見学ラッシュ」も、ことしは体験できそうにありません。

さて、その観察舎ですが、前号で「速報」しましたように県としては「廃止する方向で検討を行う」とされ、跡地利用について市と協議することとなっています。当会としては、保護区を見渡せ、望遠鏡で観察ができ、団体利用に活用できる施設が必要と考え、要望書やパブリックコメントなどをはじめ、県に意見を伝えています。しかし、現在では観察舎の今後の道筋について、具体的な動きやはまだ公にされていません。

外は実りの秋です。保護区や生物とのふれ合いの機会をどうにかして今後も確保していきたいと考えています。（清水 大悟）

白ヤギさんたら…

～常勤スタッフによる保護区・観察舎情報～

7月までは晴天続きでしたが8月は2日に猛烈な雷雨、中旬からの台風ラッシュと降雨・曇天の多い天気でした。降雨後すぐに晴れかなり蒸し暑くなることもありましたが、猛暑予測だったことを思えば過ごしやすい(?)暑さだったかと。

秋はどうなるでしょうか。

○保護区

珍しく直撃コースの多かった台風ですが、行徳の辺りは大した降雨もなく少々木の枝が折れた程度。保護区内は観察路・畦・湿地内等でひたすら草刈りを進行中。適度な間隔の降雨のせいか刈った後の草の伸びが例年より良い気がしています。

水車池④のゴムシート補修は7月中旬に無事完了。浄化池は水のついた状態でのトラクターがけの成果である程度の開水面が維持できており、サギの他オオジシギ・セイタカシギ・クサシギが入るなどいい具合に利用してくれているようです。竹内ヶ原の植生管理作業は干上げ～草刈りまでは進んだものの立て続けの台風で湿地に逆戻り。重機作業が9月中にどこまでできるかちょっと心配。湊池棚田の稲は種類によってだいぶ差が出ており、黒米はもう穂が垂れる位、赤米は9月に入る頃にやっと穂が出て、緑米2種はまだ穂があまり出ていない状態。10月のボランティア等で稲刈りの予定。

鳥は今年はオオタカが7月から若鳥・成鳥両方が見られ、8月にはノスリや渡り途中のサシバが出たことも。トビ・ミサゴも引き続き出現で猛禽が途切れません。北池や下池では少ないですがオオヨシキリが、竹内ヶ原や小島岬周辺ではセッカも鳴いています。丸浜川沿いや鴨場との境の林ではコムクドリがしばらく居ついていたようです。8月下旬には白変のムクドリが出現。外周の緑地帯ではアオサギ・ダイサギも巣立ったようです。カワウの繁殖は良好でかなり増加。コントロール区間等追い払いをかけていますが、他に行き場もないのですぐ戻って来る状態。さあどうしたものか。

今夏レンタルヤギによる除草を 1 か月試行。外周管理通路の千鳥橋から千鳥町交差点の角付近までの区間でヤギ 2 頭にクズ等を食べて除草してもらおうというもの。クズ・アカメガシワ・エノキの葉はとてもよく食べてくれましたが、当該区間はあまりヤギの食草が無く、また人懐こいヤギ達だったのでほとんど仮小屋を置いている千鳥橋付近に居た印象。一時堤防下の海岸に降りていたので慌てて救助に(夕立の大雨の中)向かいましたが、翌日自力で上り下りしていることが判明。あの苦労は何だったんだと救出チームの談。本格導入するなら導流堤とか本土部でやりたいところですが、「保護区で家畜は違和感がある」ともっともな指摘も。

○観察舎ほか

千葉県と市川市で廃館後の跡地利用(諸条件から耐震補強しての存続は困難との事)について折衝が行われているようです。まだまだ先は不透明。

夏の行事はいずれも盛況でした。今秋は谷津干潟のセンターで保護区紹介展示(10月30日まで)、11月3日やちよかん祭り。CCCは検討中ですがやる場合は年明けになるかと。

文:野長瀬・山口 友の会サイトリニューアル!

<http://gyotokubird.wixsite.com/npofgbo>



7月に保護区内でみられたバンの若鳥。保護区内で生まれた個体かもしれない。



カワセミ

カワセミのヒナは まるで 悟りをひらいた
お坊さまのようです



あっ！ コレは何でしょう？
この床に ころがっている物は一体!?



こんにちは！ 大学生インターンのOです。普段は大学の授業で大学構内を引切り無しに飛び回っている私ですが、友の会インターンとして、夏休みはここでの活動を頑張りました。

私は8月7日からインターン活動を始めました。大学側での報告の期限があったことから、夏休み中は最大で連続6日間など、ガツガツ入ったこともありましたが、おかげさまで全て乗り切り、今に至ります。これからは、大学と家の距離の問題から、授業期間中は夏休みに比べたら影が薄くなりますが、いろいろな経験をして、良い影響を受けて頑張っていきたいです。

◆インターン活動で印象に残っていることは？

野鳥病院のお世話です。ここでの活動の中心は野鳥病院のお世話なので、当然といえば当然なのですが、私はそういう理由ではありません！

私は普段の大学のサークル活動では、見たことのない鳥を求めて各地へ出向いたり、大学周辺の鳥類層の変化を調べたりしています。その時に「もっと近くで観察したい！」と思ってしまいます。野鳥病院でお世話をするときは、何をする時も、野鳥たちと近くで居られ、彼らの行動を観察できる点があります。それはどこに行ってもできるものではなく、野鳥の行動観察も大変楽しく、インターン活動にやりがいが出てきます。しかし、これにやりがいを持ってしまうと、観察に集中しすぎた時に仕事の手が止まり、気付いたらお昼休みになっていたり、ジレンマがありますね…。その時はスタッフさんが手伝ってください、その点はご迷惑をおかけしていますが、手伝ってくださいことに感謝しています。本来の仕事・目的というものを思い出して、ずれた目的に対しては限度を持って、迅速に仕事を進めることができるよう、努力して参ります！！

次に印象に残っていることは、各調査です。特に貴重な経験ができたのが、宮内庁鴨場での調査です。保護区の隣にあるのに、全く雰囲気異なり、隅から隅まで管理が行き届いていることに驚きました。多くの鳥を見ることができ、そして普段立ち入ることができない貴重な場所に入ることができ、とても良い経験になりました。

これ以外にも多くの良い経験を受けており、この記事だけでは書ききれません。

観察舎自体は閉館してしまいました。しかし、当然観察舎があるほうが楽しめますが、それが無くても楽しめるものは数多くあると考えております。観察舎が無くても自然や生き物について勉強できます。しかし、2階からの眺めは絶対に捨てられません！観察舎が一刻も早く再開できるよう、大変微力ではありますが、何か力になれば良いなと考えております。

〇君ありがとう！次回来たときは作業しながら観察できるテクニックを教えよう！

でかいヒタキ!? いや小さいムクドリ

コムクドリにコゲンカンドリ、ミュビシギ!

台風の影響だけでなく、このところ入所初記録の鳥がきています。

コムクドリは間近で見るとほんとに小さくて、ムクドリじゃないみたい! 現在、飛行リハビリ中! 目指せ放鳥!

ミュビシギは無事に放せてほんとによかった! 仲間と連れだってビューンと飛んで行ってくれました。

台風の影響で南から飛ばされてきたコゲンカンドリも入所は初記録です。

その他、台風の影響と思われるセグロアジサシ、ミソゴイと珍しい鳥たちが療養中です。元気になった鳥達は外から見られる場所へ移していますので見にきてみてください(^^)



←コゲンカンドリ 放しに行くも不時着
病院へ戻りました…。



病院初記録のコムクドリ

野鳥病院新聞

2016年(平成28年)

7月~8月号

第45号

担当: いわさき

救世主? その名はおゆまる!

ヒヨドリのギプス、
大成功!



外向きだった脚が
正常な方向に!
放鳥できそうです♪

保護される幼鳥の中には、先天性と思われる脚が外側に曲がってしまう鳥が毎年、何羽か入院します。

今まで、テープで脚を無理やり正常な位置に曲げて保定しているため、テープの部分が擦れて、傷になってしまうことがよくありました。

今年は「おゆまる」というお湯で柔らかくなるおもちゃをつかって止めてみたところ、適度に柔らかくて擦れることもなく、でも固定もしっかりできるので、ヒヨドリサイズの小鳥のギプスに最適でした! 重さも軽く、幼鳥でもギプスをつけたまま飛べるほどで、鳥への負担も少なそうです。これから脚の骨折治療に使っていただきたいと思います!

ありがちなビフォーアフター撮り忘れたー! というわけで完治後の写真のみです…。

しっかり治療前と治療後の写真記録を残しておかないと! と思いつつ、いつも忘れてしまいます(^;)
そのために治療室にカメラも置いてるのに!

渡り鳥のふるさとを訪ねて



今年の6月14日から7月18日、ロシアのサハ共和国レナ川河口で行われたコクガンの調査に参加してきました。この地域は、コクガン以外にも、日本で見られる多くの水鳥の繁殖地になっています。カモ、シギ、チドリ、そして私が渡りルートの調査研究をしているセグロカモメもその一つです。私は、とうとう彼らのふるさとに行くチャンスをいただいたのです！

みなさまには、ご支援、応援いただき誠にありがとうございました。

1ヶ月という長い期間でしたが、ロシアのみなさまもとても親切であつという間に時間が過ぎ去り、とても楽しく生活することができました。飛行機などの交通に関するトラブルも頻繁に起きる国と聞いていましたが、なんとか！？行程通りに進みました。調査自体も、主目的であるコクガンの標識調査も21羽の個体を捕獲し黄色い足環を装着できました。

また、滞在していた島（Nerpalbakh 島）でシギチドリ類の調査を行い、主にニシトウネンとハイイロヒレアシシギでしたが、日本と共通種であるハマシギ（日本に渡来する亜種とは別亜種のようなのですが）、サルハマシギ、ダイゼンも捕獲することでき、左足のふしよと脛、2個の赤いリングを付けました。

また、ツンドラの行き帰りに立ち寄ったメテオスタンセン（気象観測所）で1羽だけでしたがセグロカモメ（足の黄色いタイプでしたので、タイミレンシスと呼ばれているものと思われます）を捕獲し左足に赤いリング（赤29D）を付けました。

今後日本で観察されると良いなあと思っています。

みなさまも水鳥の足に注目していただけると嬉しいです。

今回の調査報告会を8月21日に谷津干潟観察センターにて、また9月に北大で開催の鳥学会大会、11月のモニタリング1000シギチドリ交流会などで報告させていただきます。

（佐藤 達夫）

7・8月 保護区の鳥の様子

川上正敬

2016年7月から8月の保護区鳥類調査の結果です。この二ヶ月で39種を記録しました。種数は少なめですが、カイツブリ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ等の若鳥で賑やかになりました。

《今季のトピックス》

1. カイツブリの巣は北池と田の字池に通算5巣が確認されました。
2. 若鳥を連れたセイタカシギの家族が新浄化池でよく見られました。
3. パンの若鳥2羽が一緒に行動していました。兄弟のようです。保護区で生まれた可能性があります。
4. カルガモの親子が新浄化池で見られました。最終的に雛は1羽になってしまったようです。

No.	科名	種名	7/2	7/10	7/16	7/25	7/30	8/6	8/14	8/21	8/28
1	カモ科	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2		ハシビロガモ				○		○	○		
3		オナガガモ						○			○
4		ホシハジロ		○					○	○	○
5	カイツブリ科	カイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	ハト科	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	ウ科	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8	サギ科	ゴイサギ			○	○			○		
9		アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10		ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11		チュウサギ				○	○		○	○	○
12		コサギ				○		○	○	○	
13	クイナ科	パン					○				
14		オオバン			○						
15	チドリ科	コチドリ		○							
16	セイタカシギ科	セイタカシギ			○	○			○		
17	シギ科	オオジシギ				○					
18		イソシギ			○			○	○	○	○
19	カモメ科	ウミネコ				○	○	○			
20	ミサゴ科	ミサゴ				○		○			
21	タカ科	トビ							○		
22		オオタカ						○			
23	カワセミ科	カワセミ					○	○		○	
24	キツツキ科	コゲラ			○					○	
25	モズ科	モズ		○							
26	カラス科	オナガ		○	○			○			
27		ハシボソガラス	○	○					○		
28		ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○
29	シジュウカラ科	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30	ツバメ科	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
31	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
32	ヨシキリ科	オオヨシキリ		○						○	○
33	セッカ科	セッカ	○	○	○	○		○	○		○
34	ムクドリ科	ムクドリ	○	○	○	○	○			○	○
35	スズメ科	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
36	セキレイ科	ハクセキレイ	○			○			○		
37		セグロセキレイ							○		
38	アトリ科	カワラヒワ		○	○	○					
39	ハト科 (外来種)	ドバト	○	○	○	○		○	○	○	○
種数			16	21	21	24	16	22	24	20	19

屋久島やまがら便り

その40

台風と小さな蠅

今年初めての台風12号が島に接近中です。一つ前の10号は、ついに来るかと待ち受けていたら、くると向きを変えて引き返し、東北や北海道に甚大な被害をもたらしていました。被災地域の方々には心よりお見舞い申し上げます。この夏、島は7月上旬にうんざりするくらい雨が降ったと思ったら、その後はうんざりするくらいの晴天続き。天気が良すぎるとそれはそれで不安で落ち着かなくなってしまうのが屋久島。ようやくの台風到来に、どこかほっとした気持ちすら抱いています。今日は船も飛行機もバスも欠航。昨日のうちに家周りを片付け、数日間のフェリーの欠航に備えて食料も買い込みずみ。停電に備えてお風呂の残り湯もとってあるし、懐中電灯やろうそくの準備は常日頃からばっちり。暴風圏内に入るだろう夕方まで、のんびりを決め込んでいるところです

昨秋、島の農業を揺るがす事態が起きました。国内で1986年に根絶していたミカンコミバエという害虫が、奄美大島において9月以降数十匹規模で捕獲、さらに自生のグアバ(バンシロウ)の実で繁殖が確認されたのを皮切りに、11月4日に徳之島、11月23日にはついに屋久島でもトラップに28匹がかかり侵入が確認されたのです。屋久島では1974年以来、41年ぶりのこと。ミカンコミバエは東南アジアを主な生息域とする体長7ミリほどの小さな蠅で、台風などの強風に乗り飛来したものと推測されています。人体に害はないものの、雌は熟した果実等の中に卵を産み付け、幼虫がその果実を食い荒らし腐敗、落果させてしまう大変困った虫。柑橘類に限らずグアバ、びわ、スモモ、パッションフルーツ、マンゴー等様々な果実、ピーマン、なす、トマトなどの果菜も産卵対象で、雌1匹が1000個以上の卵を産むと言われ、一度蔓延を許すと農産物が大打撃を被ります。前回国内での防除には、根絶までに18年もの歳月が費やされたそうです。今回早期根絶を目指して、奄美では12月13日から緊急



▲ミカンコミバエ成虫
(出典：農林水産省 HP
<http://www.maff.go.jp/pss/i/introduction/gallery/byougai.html>)



家の近くにて見つけたテックス板。表には「危」の文字が。

防除のための農産物の移動規制措置がとられ、ローカルニュースで大量の柑橘類が全面廃棄処分される心痛む映像が流れました。屋久島も同じくポンカン(ポンカン)の収穫の最盛期。2月には主要産物の一つであるタンカン(タンカン)の収穫も控えており、トラップによる調査・監視の強化と、防除の取り組みがなされました。ミカンコミバエの防除には、木材繊維を固めたコルクのようなテックス板に、雄を誘引する作用をもつ

メチルオイゲノールという成分と殺虫剤を染み込ませたものを設置して誘殺する「雄除去法」が用いられます。家の近所を散歩していると、道端の木にも設置されていました。加えて町の防災無線では初夏頃まで連日、果樹園のみならず家庭の庭木でも利用予定のない 果実は地中深く埋めるように、と注意喚起の放送がありました。島には高齢化などで放置された果樹園も多く、その全てを埋めることなど到底不可能と懸念されましたが、幸い11月最終週の173匹をピークに、12月には捕獲数も激減し、出荷停止の事態は免れることができました。

奄美大島では最後の誘殺から3世代相当期間に当たる27週連続で誘殺ゼロであったことから根絶とみなし、7月14日にようやく緊急防除措置が解除されました。当初来年3月までと見込んでいたことを考えると、早期の対策が功を奏したと思われます。それを受けて屋久島でも、晴れて今回のミカンコミバエ種群侵入に対する対応は終了、となりました。自然相手のこと、いろいろ困難もありますが、産地ならではの 格安で思う存分美味しい果物が食べられる幸せ。あらためて噛みしめています。この冬も無事いただけますように！



(2016年9月3日・瀬戸山瑞香)

賛助会費または寄付金をいただいた方々（7月～8月分）
どうもありがとうございます。今後もよろしくお願いいたします。

ニャーのパクリ

文 町田 安男

絵 清水 大悟

猫にとっても、秋はものがなしい。それは
オイラが飼主の「ヒゲ」ともども「高齢者」
になったこととも関係を認めざるを得ない。
が、ヒゲはまたまた新たな悪企み、じゃなくて
大きな「夢」をみているのだ。

常日頃、人間との関わりが、オイラたち
ペットには、ささいなコトでも一生を左右
することになることがしばしばおこる。

だからオイラにとって、ヒゲのやること
なすことを注意深くつかんでおかなければ。

というわけでこの頃は、次に何をやらか
すかが、ほぼよめるようになった。

まず夜明け、うす明かりの頃、ヒゲの頭
に回りチョッカイとタッチ、次にオデコで
軽く頭突き、ここで目をさましたヒゲの手
が伸びて、顔といわず頭といわず、それこ
そ体中をこねくり回されることになる。

ひとしきりすんで、チョットヒトイキ！

着更え、つれ立って朝のお仕事、すっきり
としたところで、ヒゲは日記を書き始める。

ここでお茶、オイラは専用のカップで水、
ラジオのSWを入れる。

新聞に目を落としながらだから半分位
は聞いているのだろうか？

時計代わりにしているのかも！

この時はオイラがいくらスリスリして
も、無視されるので、時々新聞をかじって
穴だらけにしてやるのだが、あまり効果は
なかった。

✎



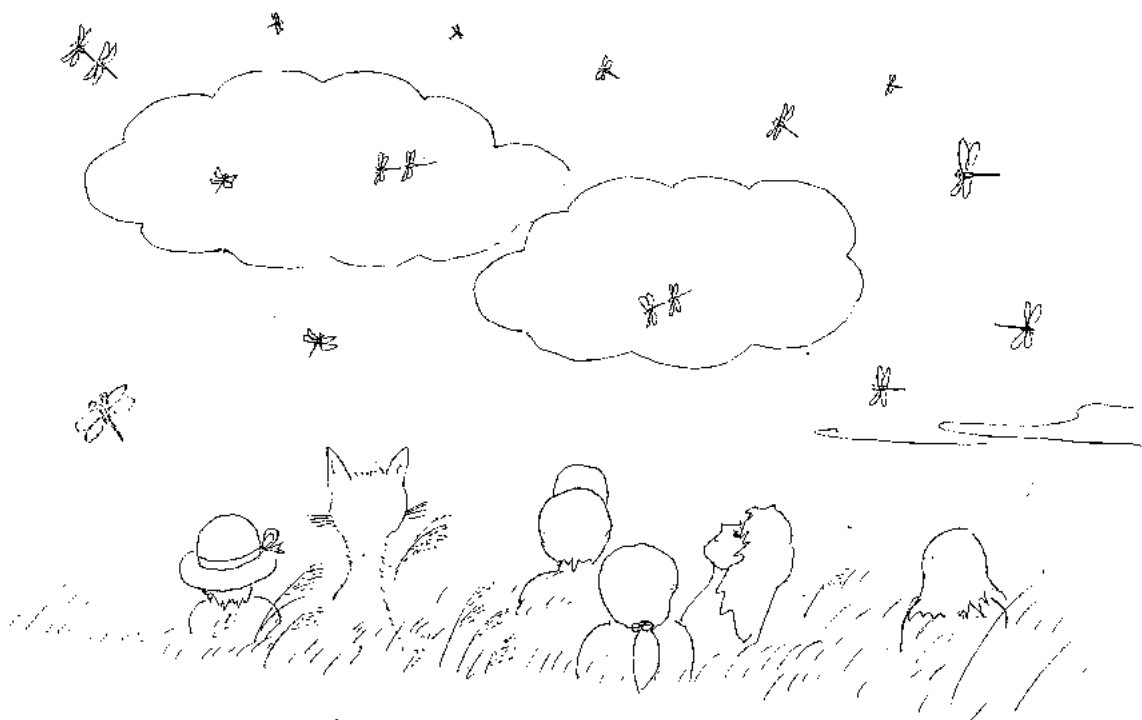
いつかオイラを中心の毎日を夢見て
すごすうちに、はや猫生のラストに近づい
てしまったのに気がついた。

ヒゲともども、高い所は苦手、やること、
なすこと全てゆくりズムに変化していた。

秋の気配が濃くなるにつれ周囲が何と
なくうらがなしく冬に向ってみんな一目
散に駆け入るように感じられるのは、あな
がち寄る年波だけでは・・・

神さまのなさることは誰彼、差別ナシの
公平でといっても、老いという贈りものは、
できたらご辞退申し上げたいとは、頭では
わかっているのだが、これが割り切れない
のが凡人の所以たるもの。

とにもかくにも年令を重ねるにつれて、
智力、体力ともにピークを越すと、ヒゲたち
“ヒト”はあきらめの混ざったあせりが垣
間見られるようだが、そこんこはオイラ、
“ネコ族”はとんと無頓着、特に云うこと
はナシ！



それこそこの世に生きる順番をくださった神さまの意のまま、迷いや七欲には無縁の風の吹くまま、気の向くままのただのナリユキ暮し、だから“ウツ”とは関係が無い。

しかし、これは表向きのハナシで、ヒゲのようなヒトと毎日落していると、そんなことばかり云ってられないのが本当の“ハナシ”、いやでも付き合ってやらなければならないことが近日来何となく増えてきたように思える。

オイラには大きな荷物だとは本人がまるっきり自覚していないのが原因、しかしこれはずっと好転することは・・・

猛暑がニュースのメインとなる日が9月になっても連日続き、保護区内の草丈も迫力を増し、ヒゲの背丈どころの騒ぎではなく、刈っても刈っても戦争？が続くそう。トラクター小屋近くのバットのオタマジャクシはあらかたとび出し、それぞれ新天地に向った内、早く上陸したアズマヒキガエル、ニホンアカガエルが時々草取り中に姿を見せるようになったそう。

水路ではカダヤシが圧倒的に領土を拡大、いたるところに群をなす中で、今年はザリガニが少し増えて時々観られるようになった。

ハスは桜並木の下に2輪のみ、通路側のヨシタケハスは花は皆無。やはり掘り起こし施肥しなければ花がつかないようだ。

クロベンケイガニ、ベンケイガニは日によって姿を現わす数が変化、雨模様のような湿気の多い午後には特にクロベンケイガニが多いと・・・・・・

町田池が完全にマコモ、ヨシ、ショウブに占領されて、水面が殆ど見えなくなったので、木下サン、渡辺サンにエンジンで刈ってもらい安心したのも束の間、一か月たたないうちに又、芽吹いて、やはり冬の間に根を掘り出さなければと痛感したらしい。

何しろ繁茂した草で道と池の区界がはっきりしなくなったうえに、水深が浅くなり、中の生物などにも影響が大きい。

それと柳などが成長した結果池面に陽光が射さないで水温が上がらないといったデメリットばかりが目立ってきた中で、大きな助太刀が現われたらしい。

今現在、尻すばみのようにになっている町田池から、海までの水系の全面改革をして海水、汽水、淡水と水路を造り直し、全ゆる所で常時採取観察ができるようにしようとする動きが“行徳生物多様性フィールドミュージアム研究会”の風呂田先生のもとで少しづつ実現されようとしているのは、ヒゲにとっても大変な朗報、毎晩のビールが増えたらしい。

計画によると、町田池の淡水入口に石組みと掘り下げ、水面にかぶさっている柳などのせん定と水草の除去、合わせて保存する植物の特定とせん別、時々来ているカワセミの止り木や、トンボ類の産卵場、フナ、モツゴ、カエルの隠れ場等々、どれもこれも人手のかかることばかりが問題だとか・・・

配電盤下の水路はやはり樹木が茂って蓮が開花できないので他に移植、柳を増やして昆虫の居所を増やす方向にする。

No.4池は町田池水路と完全に切り花して、ニホンメダカだけを生息させるようにしたい。そこからNo.9池までの水路は広げて、蓮池にする。

今完全に見えなくなっているNo.5池周辺はナンバンギセルの群生地を残してアシを除き、その排水口から下流は改造工事の出発点として、約70mの今までだれも関心をもたなかった水路を造り直し、観察会の参加児童が入りカニなどを捕まえられる仕組みを加えたり、階段を所々に作るにより、ソ上してきた魚などが休んだりするのを見られるように、考えられることを全てぜいたくにもりこんだ“モノ”にしたいとヒゲは夢みている。

勿論これらが実現するまでには、諸兄に頼ることになる。現在置かれている新浜の状況からして、もっと開かれた、自然に親しむ絶好のフィールドを完成させるためには、今がチャンスだとヒゲは真剣に考えている。

現在、色々なイベントが行われるようになってビジターが少しづつ増えてきたのは喜ばしいこと、それにはこの水路プロジェクトを完成させ、子供が夢中になる目玉、プレイランドにしよう！

ヒゲは又、こうも云ってはばからない！

今や保護区は鳥だけではなりたたない！

全ての生き物に親しみ楽しめるようにしなければ、やがては先細りに、そして環境の変化に敏感な鳥たちが減少してきている現状をどうみるのか？

やがて観察会の内容がとって更るのも近いかもしれないと・・・

2016年(秋) 行徳地区鳥類調査結果

調査場所	新浜鴨場 (除く北池)	保護区					江戸川放水路(行 徳橋-河口)	塩浜海岸(市川側 三番瀬)	総計
		本土	北池・金魚池 ・浅排水機場	丸浜川 欠真間三	周辺緑地	小計			
調査日・天気	8/24晴	8/20 雨(小雨～豪雨)					8/28曇	8/20 小雨時々晴れ	
種類\調査時刻	9:35-10:56	8:15-10:20	8:42-9:20	7:45-8:52	9:20-10:06	8:15-10:20	10:00-12:15	10:45-11:45	
カルガモ	5	6	6	27		39			44
ハシビロガモ	1		1			1			2
オナガガモ			1			1			1
ホシハジロ	1		3			3			4
スズガモ							2	4	6
カイツブリ	8		10			10			18
キジバト	3			8		8	3		14
カワウ	10	33		2	156	191	5	1,220	1,426
ゴイサギ				1	1	2			2
アオサギ	1	7	2	4	30	43	2	2	48
ダイサギ	1	10			7	17	5	3	26
チュウサギ		4				4			4
コサギ		2		1	3	6	3	2	11
ミヤコドリ								7	7
ダイゼン								7	7
コチドリ							3		3
メダイチドリ							4		4
チュウシャクシギ							6		6
クサシギ		1				1			1
キアシシギ			1			1	9	7	17
ソリハシシギ							17		17
イソシギ	2	1				1	1	1	5
ユリカモメ								1	1
ウミネコ							10	252	262
セグロカモメ								2	2
アジサシ								10	10
トビ	1								1
オオタカ	1								1
オナガ	4						4		8
ハシボソガラス							2	1	3
ハシブトガラス	2			7		7	3		12
シジュウカラ	7	7	1	2	1	11			18
ツバメ	6	1	2	1		4			10
ヒヨドリ	4	3	2	13		18	2		24
ムクドリ	9		13	11		24	45		78
コムクドリ			2	2		4			4
イソヒヨドリ			1			1			1
スズメ	10	23	8	51		82	42	5	139
ハクセキレイ	1	2				2	1	2	6
カワラヒワ		5				5	4		9
合計	77	105	53	130	198	486	173	1,526	2,262
種数計	19	14	14	13	6	25	21	16	40
番外:ドバト							54		54

調査担当者…保護区・三番瀬(塩浜):東良一・清水大吾・矢野英之・大林岳史 江戸川放水路…鈴木裕子 新浜鴨場…山口誠・大沢隼也

状況:豪雨のため周辺緑地のカワウは全く見えませんでしたのでCountしていません。三番瀬市川漁協へは入場できませんでした。

2016年 7・8月 活動報告

市川市・千葉県等、他団体主催行事含む。定例観察会は除く

- ・7/9(土)浦安鳥類カウント
- ・7/4・5 軽トラ車検
- ・7/12・13 水車池④ゴムシート補修工事
- ・8/7(日)11期インターン修了報告会 12期インターン活動開始
- ・8/2(火)落雷・停電、ヒューズ交換
- ・8/4・5(木金)仮設禽舎猛禽室補修工事
- ・8/9(火)カワウコロニーユニディ側ヤギ除草実験開始(2頭。1か月)
- ・8/20(土)8時- 保護区カウント
- ・随時：植物調査(植物調査) 昆虫調査(昆虫班))
夜間生物調査準備(夜間生物調査イベント班)

取材・打合せ等

- ・7/21(木)、8/1(月)：県自然保護課打合せ
- ・8/2(火)県土木部・自然保護課視察

団体・学校利用

- ・7/1(金)福栄小4年生45名
- ・7/2(土)イオン市川妙典チアーズクラブ21名
- ・7/5(火)南行徳小学校3年生123名
- ・7/13(水)塩浜学園3年生：25名
- ・7/25(月)浦安介護予防アカデミア26名

実習・職場体験

- ・8/8～11(月～木)東邦大ビオトープ実習：20名

特別企画行事

- ・7/17(日)フィールドミュージアム「わくわくカニっ子大作戦」31名
- ・8/13(土)昆虫観察会(講師恩田幸昌さん)
セミ羽化観察会
- ・8/20(土) フィールドミュージアム「泥干潟ってどんなところ？」24名
- ・8/21(日)江戸前干潟研究学校 17名
市川市こどもエコクラブカニ観察会 45名
夜の生物観察会 34名

断斜里の道は・・

蓮尾純子

わが家でいちばん古いものは？

もちろん私、生後 68 年！というわけでもなくて、私より年上のものも少々。何 といっても最年長とおぼしきものは、母が学生時代に祖父に古道具屋で買ってもらったという両袖机。大正 3 年生まれの母より年上の可能性もあるので、年齢 100 才以上かもしれません。こどものころはよくこの机でかくれんぼしたものでした。両袖に引き出しが 4 つずつ、大きいのが上に 1 つあって、今でも文具や手芸 関連の収納に重宝しています。

その次は、亡夫嘉彪の赤ちゃんの時の肖像デッサン。たぶんデザイナーだった 義父が描いたもので、76 年くらい前のもの。そういえばアルバムの中の写真には もっと古いものもあるかな。

さてその次・・・となるとかなり迷いますが、中学生のころに買ってもらったヘアブラシもけっこうご年配。同じく中学生のころのアルミのおなべは、大きいので大学の合宿にリュックにかぶせるようにつけて山に行ったおぼえが。 どちらも現役です。

結婚当初に買った家具と若干の衣類や本を除くと、あとは行徳に来てからのもので、打ち出し鍋、お風呂場の腰掛等。風呂場のせっけん入れと腰掛は最初のふろおけの色に合わせて買ったもので、3 回の引っ越しを経た今の家では 4 度目の現役ですが、相変わらず色はしっくりしませんねえ。

使えないもの、使わないものを切り捨てて行くのは当然のこと、生活の知恵、断捨離！と割り切ろうとしても、なかなか現実にはふんざりがつかない。どこかでえいやっ、ですね。でもここで書いたご年配のモノたちとは、まだしばらくお付き合いすることでしょう。アルミなべは穴があいたらさっさと捨てますけど。

「えっ、6 年も使っておられるんですか？」
大手ふとんメーカーの〇〇さんの若い営業さん。お布団って、6 年使うのは異例なの？ 2 回ほど打ち直し、丸洗いも 1，2 回やって 6 年どころか〇十年使った掛布団、猫のふじこがさんざん粗相をしたので、やっぱり捨てようかな。それにしても〇〇さんのお布団はもう金輪際買わないぞ！ささいなことでも言葉づかいには気を付けなと。

目下、12 月 23・24 日に行徳で行われる鳥類標識大会に向けて、お土産用のせんたくバサミマスコット量産に踏み切ったところ。材料として黒い T シャツを何枚かつぶして切断中です。これって断（捨）離？

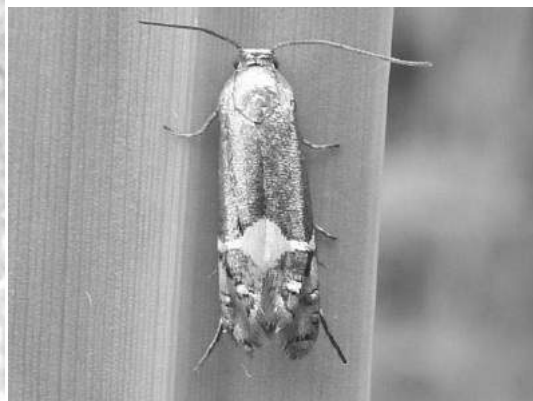
外の雨が小止みになりました。猫のワクチン接種と買い物に出るころにはなんとか止むかも。一挙に秋が進んで、もうすぐ彼岸花、そして金木犀。季節の変わり目、みなさまどうぞお大切に。

夏は虫たちのパラダイス！

色と形の多様さに目をみはるばかりです(写真提供：昆虫班 み)



アオオビハエトリ



ツマキホソハマキモドキ(8月24日保護区初)



シロテンハナムグリ



コクワガタ



チョウトンボ



アオメアブ

行事のご案内

どなたでも参加できます。市川市主催行事については、「広報いちかわ」に掲載されます。

本欄と併せ、ブログ「行徳野鳥観察舎日誌」をご参照ください。<http://suzugamo.seesaa.net/>

☆行徳やちょかんまつり 11月3日(祝) 10時～14時ごろ(予定)

場所：観察舎付近及び観察舎前芝生（観察舎の建物には入れません）

○脱穀体験（足踏み式脱穀機・唐箕：雨天中止） ○遊びコーナー などを予定しています。
お楽しみに！（内容は変更の可能性があります）

詳細は、友の会（070-1491-9898）まで

☆ジャパンバードフェスティバル2016 11月5日（土） 11月6日（日）

会場：我孫子市 手賀沼 友の会も参加します。6日午前中は鳥類博物館でミニ発表も予定。
あそびにきてね。

☆日本標識協会大会 12月23日（祝）、24日（土）

全国的な組織の大会が、今年は行徳を舞台に行われます！

23日午後と24日午前、南行徳市民談話室にて標識調査についてのシンポジウムや講演、
24日午後は、保護区や近隣の湿地のツアーを予定。

詳細は、友の会（070-1491-9898）まで

☆行徳生物多様性フィールドミュージアム

保護区は生きた野外博物館。さまざまな視点から、その魅力を再発見し、研究してみます。

日程・詳細は、友の会（070-1491-9898）まで

☆江戸前干潟研究学校 参加者募集！！

東邦大学理学部東京湾生態系研究センターの指導により、保護区内の湿地や干潟で生物調査
を行い、東京湾水辺の豊かな自然を体験する環境学習プログラム。

日程・詳細は、友の会（070-1491-9898）まで

☆三番瀬自然観察会（船橋） 10月2日（日） 11月6日（日） 12月4日（日）

集合：船橋海浜公園バス停 10時 解散：14時ごろ。

交通：京成船橋駅南口（J R船橋駅南口より徒歩2分）より船橋海浜公園行きバス乗車、終点下車。

またはJ R京葉線二俣新町駅より徒歩25分（バスもあり）

持物：弁当、飲み物、帽子、雨具、長靴（または濡れてもいい靴）、観察用具など。11月以降は防寒を
しっかりと。 参加費：200円 主催：千葉県野鳥の会 問合せ：田久保（ ）。

北の国からカイツブリ、カモ・カモメなど様々な水鳥がやってきます。名物ミヤコドリも期待

☆行徳鳥獣保護区 展示紹介 開催中～10月30日(日)

谷津干潟自然観察センターにて。谷津干潟にお出かけの際は、ぜひぜひお立ち寄りください！

保護区の観察会のご案内

どなたでもご自由に参加できます。

保護区の中には、以下の観察会などで入ることができます。多少汚れてもよい靴で。晩秋以降は風が冷たくなります。暖かくしてご参加を。(保護区内にトイレ、水飲み設備はありません。)

☆定例園内観察会(毎週日曜、祝日) * 事前に観察舎前で名簿にご記入ください。

集合：行徳野鳥観察舎前 13時30分 解散：15時30分ごろ。*雨天中止

問い合わせ：野鳥観察舎 (047-397-9046) 協賛：行徳野鳥観察舎友の会

次第に木の実が色づき、生き物たちそれぞれが来る冬にそなえます。冬の鳥たちが続々と到着する季節。

☆定例新浜観察会(毎月第2日曜日) 10月9日(日)、11月13日(日)、12月11日(日)

集合：地下鉄東西線 行徳駅前(改札を出て左前方の広場) 10時

2コースに分かれます。「新浜保護区コース」は保護区の中をゆっくり回り、13時30分ごろ解散。「放水路経由コース」は、バスで江戸川放水路へ、その後保護区を巡り、15時30分ごろ解散。解散場所はいずれも観察舎前。

主催：行徳野鳥観察舎友の会、日本野鳥の会東京支部、千葉県野鳥の会。 問合せ：友の会 (070-1491-9898)

参加費：200円(18歳以下は無料) 持物：昼食、飲物、帽子、放水路経由コースはバス代400円(子供200円)

渡って来たばかりのカモの群れ。野山の小鳥たち。贅沢な盛り合わせのような秋の探鳥のひとときを。

☆夕暮れ観察会(毎月第4土曜日) 10月22日(土) 11月26日(土) 12月24日(土)

集合：行徳野鳥観察舎前 16時(今月から集合が30分早くなります) 解散：18時30分ごろ。

問い合わせ：友の会 (070-1491-9898) *小雨決行

虫たちは今年最後の歌をきかせ、闇夜にカモやシギの野性的なシルエットをさがします。

☆平日観察会 10月6日(木) 11月10日(木)※ 12月1日(木)

※11月のみ第2木曜です。ご注意ください!!

集合：行徳野鳥観察舎前 10時 解散：正午ごろ *雨天決行

問い合わせ：友の会 (070-1491-9898)

黄葉、紅葉、ススキの穂、木の実。秋の彩りにあふれた保護区を歩きましょう。

○友の会新ホームページ <http://gyotokubird.wix.com/npofgbo>

8月1日より始めました。どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

☆前号で紹介したヒャクニチソウ、たった一輪だが黄色の小さな花が咲きました、もっとも、シジミチョウや小さな虫たちは、あまり止まってくれません。八重咲きで、蜜や花粉がゲットしにくいのでしょうか(D)。

すずがも通信 No. 220(隔月発行)

2016年10月1日発行

発行所 認定特定非営利活動法人 行徳野鳥観察舎友の会

E-mail tomonokai_suzugamo@ybb.ne.jp

年会費 賛助3000円以上、普通2000円、電子1000円、ジュニア(18歳以下)500円、法人・団体10000円以上

郵便振替 行徳野鳥観察舎友の会 02220-4-6129

URL <http://gyotokubird.wix.com/npofgbo>

編集 清水大悟、若林直樹、西方明雄、岩崎加奈子(庶務)

印刷 株式会社 オフィス ティースカイ

[千葉県行徳野鳥観察舎(休館中)]